

農業農村整備の集い

～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～



二階全土連会長

10月20日(木) 砂防会館別館「シェーンバッハ・サポー」で、令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から土地改良関係者など約1,060名(出席国会議員含む)が参加した。

始めに二階俊博全土連会長が「現在、来年度予算の折衝が続けられているが、農家の皆さんの期待に応えられるよう十分な予算確保に向けて、我々は一致団結して進んでいかなければならない。また、男女共同参画の取組みを本格化させる時期に来ており、土地改良区理事の10%以上を女性にする。土地改良区・土地連の女性登用を推進する。この目標に集中的に取り組むことをお願いしたい。『闘う土地改良』は限りなく続く。男女ともに一致団結して更なる闘いを続けるようお願いしたい」と挨拶を述べた。

ご臨席の藤木眞也農林水産大臣政務官、自民党の遠藤利明総務会長、森山裕TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、江藤拓党総合農林政策調査会長、武部新党農林部会長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問からの力強いご祝辞をいただくとともに、多くの国会議員の皆様



ガンバロウ三唱

に駆け付けていただいた。

また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、荻原丈巳氏(山梨県土地連総務課長、全国水土里ネット女性の会初代会長)に、二階会長から感謝状が授与された。

その後、要請案文の提案・採択、女性理事登用の事例発表(胆沢平野土地改良区・及川正和理事長)が行われ、最後に「ガンバロウ三唱」の力強い発声と盛大な拍手をもって閉会した。



会場の様子

全国水土里ネット女性の会研修会



根本会長

10月21日(金) 砂防会館別館1階会議室で、全国水土里ネット女性の会研修会が開催され、全国から関係者100名が参加した。

始めに、全国水土里ネット女性の会根本会長(あきた水土里ネット女性の会会長)から「21世紀の活力ある社会を造って行くためには、これまで以上に『女性の活躍』が求められている。土地改良においても、女性参画について明確な数値目標が示された。女性が生き生きと活躍できる職場は、全ての職員が生き生きと活躍できる職場だ。『女性活躍』を推進していくためには、その必要性を土地改良関係者それぞれの立場で正しく理解し、一体となって取り組むことが重要だ」と挨拶を述べた。

研修会では、全国水土里ネット室本専務理事より「農業農村整備について」と題して、土地改良区の業務や歴史、土地改良団体における男女共同参画について講演をしていただいた。

次にグループワークとして「男女共同参画推進に向けた、課題の解決」「意識の醸成のための運動論を探る」と題して、参加者をA～Pグループに分け女性参画に向けた現在の課題や課題解決に向けた具体策など活発な意見交換がなされた。



全国水土里ネット会長会議顧問
宮崎参議院議員

最後に情報提供として全国水土里ネット会長会議宮崎顧問より「全国水土里ネット女性の会が設立され約3年経つが、まだマスクが外せない状況の中このように全国からFace to Faceで集まるのは本当に久しぶりだ。是非この機会に皆さんの輪を広げていただきたい」と挨拶があった。

今回の研修では全国から様々な土地改良関係者が集まり、実り多い研修会となった。



室本専務理事



会場の様子

進藤金日子参議院議員が豪雨災害被災現場を調査



令和4年8月2～3日及び9～16日に秋田県北部を中心として発生した豪雨災害の被災現場を、進藤金日子参議院議員が訪れた。8月26日に北秋田市、また、9月25日には鹿角市・大館市を調査し、地元の首長らと意見交換をした。

県内では、鹿角市など県北部を中心に広範囲で大雨の被害が発生し、農林水産関係だけで74億円を超えるなど、大雨被害では過去3番目となる被害額となった。

北秋田市

進藤議員は8月26日、県農林水産部舩谷雅広次長の案内で米代川が氾濫して流木や土砂が流入した北秋田市の水田や、堤体が決壊した綴子の農業用ため池を調査し、その後、北秋田市役所内で津谷永光市長らと、水稻被害への対応、ため池の災害復旧に関する留意事項、揚水機場復旧の方向性などについて意見交換した。



鹿角市

9月25日午前には鹿角市役所内で関厚市長らと意見交換した。その後、関市長の案内で山林の土砂が流入した鹿角市尾去沢の住宅地や、ほ場整備事業実施中の末広地区等を調査した。普通河川が氾濫して農地やJR花輪線が被災した現場では、「抜本的対策の必要性を感じる」とのコメントがあった。



大館市

9月25日午後からは、大館市役所内で名村伸一副市長らと意見交換した。その後、名村副市長の案内で大館市十二所の合津川が氾濫して農機具小屋から押し流された農機具の残骸や、大館市比内町の味噌内川が氾濫して比内地鶏が溺死した鶏舎跡地を調査した。



調査後、進藤議員から「今後の復旧に向けた課題等を確認できたので、秋田県と東北農政局と情報共有するとともに、連携を図りながらしっかりとフォローして参りたい」との力強い言葉を頂戴した。

なお、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、当該災害を激甚災害として指定し、併せて当該災害に対し適用すべき措置の指定に関する政令が9月30日（金）に閣議決定され、10月5日（水）公布・施行された。

8月豪雨災害への本会の取り組み



本会では、県北を中心に発生した8月の豪雨による農地・農業用施設、災害について農村災害支援協議会を通じて、鹿角市、大館市、北秋田市、小坂町から災害査定設計書作成業務を受託し、本会の総力をあげて同業務の遂行に努めているところです。11月上旬からは災害査定が始まり、職員を総動員し業務にあたっております。

※数値は本災害のみの箇所数としています

市町村名	農地災害		施設災害		備考
	全体	土地連受託	全体	土地連受託	
鹿角市	14	13	43	39	
大館市	18	6	39	18	
北秋田市	52	24	79	—	
小坂町	—	—	1	1	



本会佐藤専務理事が 令和4年度農村振興技術連盟大賞を受賞



本会専務理事である佐藤暢芳氏が、令和4年度の農村振興技術連盟大賞を受賞されました。この大賞は、全国の土地改良技術者で構成される全国農村振興技術連盟が、農村振興にかかる技術の啓発・普及や連盟活動に特に顕著な功績があった個人、団体を表彰するものであり、佐藤専務理事は最年少での受賞となりました。



佐藤専務理事は、秋田県職員時代から36年間にわたり農業農村整備事業に携わり、退職後も本会専務理事として、一貫して農業農村整備事業の推進を通じ、秋田県の農業農村の振興・発展に貢献してきました。

特に、秋田県職員時代には「あきた型ほ場整備」の枠組みを構築するにあたり強力なリーダーシップを発揮し、秋田県における農業農村整備事業を先導しました。

これら長年にわたる功績が高く評価され、今回受賞の運びとなりました。

「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」を開催 ～誰もが活躍する農業・農村を目指して～

土地改良団体における男女共同参画推進研修会



11月8日（火）秋田市で「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」が開催され、県内土地改良区の理事長など関係者88名が参加した。

同研修会は、令和2年の第5次男女共同参画基本計画及び令和3年の土地改良長期計画において、土地改良区（土地改良連合含む）の理事に占める女性の割合を10%以上とする成果目標が設定されたことを踏まえ、目的、方法、定款変更の手続きなどについて情報共有を図り、今後の土地改良団体の男女共同参画を進めるための方策を探ることを目的に、全国水土里ネットと秋田県土地改良区運営基盤強化協議会（委員長：大山泰泉農地整備課長）の主催で開催された。

開会にあたり、同協議会委員長の大山課長が「女性が働きやすく、暮らしやすい農村になることが重要であり、そのため地域をリードする女性農業者を育成し、農村に関する方針策定への女性参画を推進することが求められている。また、土地改良区においても女性参画の数値目標が定められたところである。本研修会は、各関係機関による支援の一環として、土地改良区における男女共同参画の意義等について、役職員の方々に理解を深めてもらうために開催するもので、今後の土地改良区の体制強化に資するものとなり、各関係機関との連携が今まで以上に図られることを期待している」と挨拶した。



研修会は、全国水土里ネット（事業部・システム開発部・技術開発部）の山田部長、東北農政局農村振興部土地改良管理課の村上課長を講師に迎え、「土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項、手引きの使い方、事例紹介」や「土地改良団体における男女共同参画」の講演のほか、県農林水産部農地整備課の足立政策監から、県内土地改良区を対象にしたアンケート結果の報告などが行われた。

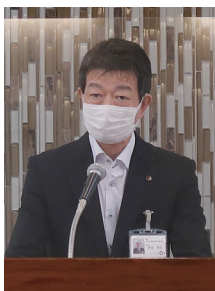
質疑応答では、「土地改良区役員の女性登用について、なぜ理事に限定するのか？」の質問に対し、「女性の新たな視点から、土地改良区運営に直結する立場・役割を担ってほしいので理事の登用を進めていただきたい」と回答があった。



国は女性理事登用の目標年度を2025年度としており、参加者は今後の本格的な検討、推進を見据えながら真剣な面持ちで講師の説明に聞き入っていた。

また、研修会終了後には、土地連役員、土地改良区理事長、男女共同参画ワーキングチームによる意見交換が開催され、各理事長から現在の取組状況や検討内容について報告があったほか、今後の女性理事登用の進め方や課題などについて意見交換が行われた。

農業農村整備に関する研修会



10月7日（金）秋田市で「農業農村整備に関する研修会」が開催され、秋田県、県内土地改良区、水土里ネット秋田の職員など62名が参加した。

同研修会は、農業農村整備事業に携わる職員等に、土地改良事業の重要性と土地改良区の地域における役割などの理解を深めてもらうとともに、現在進められている土地改良団体における男女共同参画などについて情報共有を図ることを目的に、秋田県農林水産部の主催で開催された。

始めに県農林水産部舩谷次長の主催者挨拶に続き、研修会が行われた。

研修では、全国水土里ネット専務理事の室本隆司氏を講師に迎え、「農業農村整備の役割について」と題して、土地改良区の歴史から土地改良区の役割について、土地改良事業の目的と農業振興活動の重要性、令和5年度農業農村整備事業関係予算の概要、土地改良団体における男女共同参画の推進など、非常に広範な内容で講義が行われた。

土地改良法の改正や男女共同参画の推進など、農業・農村を取り巻く情勢が変化する中で、今後の土地改良区運営や農業農村整備事業の推進に役立てようと、参加者は講師の説明に聞き入っていた。

